

すべての協力があり一時終結



1月17日、出水市において高病原性鳥インフルエンザ発生の一報が入り、本町でも防除作業に追われました。町では翌日の18日、対策本部を設置し、19日から、本町内の小規模養鶏農家などへ防除作業を実施することになりました。

県では、出水市高尾野町の発生農場から半径10²km圏内の主要道路で消毒ポイントが設けられました。本町からも、建設業者の組織からなる建友会の協力により、各消毒

ポイントでの防除作業が始まりました。町の職員も2人1組で、移動制限が解除された2月17日午前0時まで、国道389号、阿久根市黒之浜の消毒ポイントで、交通誘導の業務を行いました。

本町内においては、道の駅黒之瀬戸「だんだん市場」近くに、落差を利用した長島町独自の無人消毒ポイントが設置され、鳥インフルエンザが侵入しないよう、町民と関係者らが一丸となりました。

- ① 黒之瀬戸大橋を渡り、阿久根市側の消毒ポイントでは、警備員と本町役場職員（午前6時から午前0時）による交通誘導
- ② 道路上には消毒マットが設置
- ③ だんだん市場近くには、落差を利用した消毒ポイントが設置
- ④ 絶えずホースから消毒剤の散布
- ⑤ 個人で飼育している鶏舎の消毒作業